

Title	現代バスケットボールにおける諸攻撃法の検討：第2回1-4 Offense
Sub Title	Brief reviews on popular offenses in modern basketball : no2 1-4 offense
Author	加藤, 大仁(Kato, Hirohito)
Publisher	慶應義塾大学体育研究所
Publication year	1999
Jtitle	体育研究所紀要 (Bulletin of the institute of physical education, Keio university). Vol.38, No.1 (1999. 1) ,p.19- 27
JaLC DOI	
Abstract	According to Ceravolo, 1 -4 offense had already been in use in 1937. In today's basketball game, this offense is one of the most popular offenses. 1-4 offense is defined by players' alignment and classified as follows; a)1-4 High, b) 1-4 Tight, and c)1-4 Flat. When the defense plays aggressive man to man defense, one of the most effective ways to combat this defensive pressure is to use 1-4 set. Because all offensive players are one pass away from the point guard, both wing players and post players can execute backdoor play if overplay is continued. If defense relinquishes some of their pressure, the offense can enter into its regular patterns. Skilled point guard is necessary to run 1-4 offenses. This might be a disadvantage of this offense. For backdoor option, a t all point guard is desirable.
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00135710-00380001-0019">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00135710-00380001-0019</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 現代バスケットボールにおける諸攻撃法の検討

## —— 第2回 1-4 Offense ——

加藤 大仁\*

### Brief Reviews on Popular Offenses in Modern Basketball

No. 2 1-4 Offense

Hirohito Kato<sup>1</sup>

#### Abstract

According to Ceravolo, 1-4 offense had already been in use in 1937. In today's basketball game, this offense is one of the most popular offenses.

1-4 offense is defined by players' alignment and classified as follows; a)1-4 High, b)1-4 Tight, and c)1-4 Flat.

When the defense plays aggressive man to man defense, one of the most effective ways to combat this defensive pressure is to use 1-4 set. Because all offensive players are one pass away from the point guard, both wing players and post players can execute backdoor play if overplay is continued. If defense relinquishes some of their pressure, the offense can enter into its regular patterns.

Skilled point guard is necessary to run 1-4 offenses. This might be a disadvantage of this offense. For backdoor option, a tall point guard is desirable.

#### I. はじめに

今日のNCAAバスケットボールにおいて、1-4 Offenseは、Box OffenseやStack Offenseと並んで最もポピュラーなセットオフenseといえよう。我が国でもこのオフenseシステムを採用しているチームはかなりの数にのぼると思われる。

Ceravoloによればその起源は1937年まで溯り得るということであるが<sup>2)</sup>、1950年代後半にRay Mearsが用いたことによって徐々にこのオフenseシステムに注目が集まるようになった<sup>3)</sup>。その後、Jack Ramsey率いるPortland Trailblazersが、1-4 Offenseを効果的に利用してNBA Championshipを獲得したことによってさらにこのシステムへの注目度が高まったといえる。現在NBAレベルでは、Jerry Sloan率いるUtah Jazzが1-4 Offenseを長期にわたって非常に効果的に利用しているのは周知の通りである。

そこで、本稿では1-4 Alignmentからの基本的なムーブ・プレーを提示した後、その長所・短所等を考察したい。

\*慶應義塾大学体育研究所専任講師

<sup>1</sup>Assistant Professor of the Institute of Physical Education, Keio University.

## II. 1-4 Offense の定義及び基本的な Alignment

1-4 Offense という名称は、4人のプレイヤーが横一列に並んだ Alignment に対してつけられたものであり、4人のプレイヤーの並び方及びその位置に応じて以下のように分類される。それぞれの Alignment をどう呼ぶかは各々コーチによって様々であるが、ここでは最も一般的な呼称を用いることとする。

### a) 1-4 High (図2-1)

4人のプレイヤーがフリースローライン及びその延長上に一列に並んだ状態。単に1-4 Offense と言った場合、この Alignment からのオフENSEを指すことが多い。本稿での考察も1-4 High からのオフENSEを中心に進めていく。

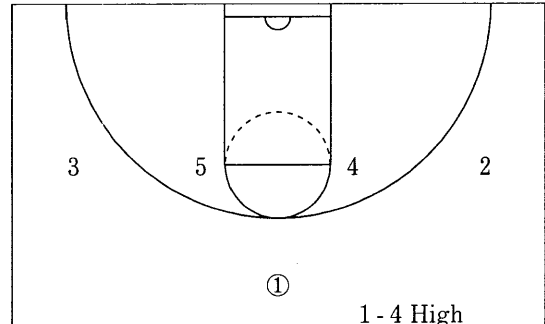


図2-1

### b) 1-4 Tight (図2-2)

4人のプレイヤーがフリースローライン及びその延長上に並ぶことは1-4 High と同じだが、同じサイドの2人がよりタイトな位置になる<sup>#1)</sup>。

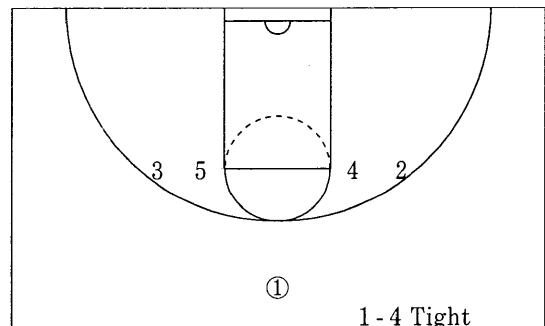


図2-2

### c) 1-4 Flat (図2-3)

1-4 Baseline, 1-4 Lowなどと呼ばれることも多い。4人のプレイヤーがベースライン近くに一列に並んだ状態を指す<sup>#2)</sup>。

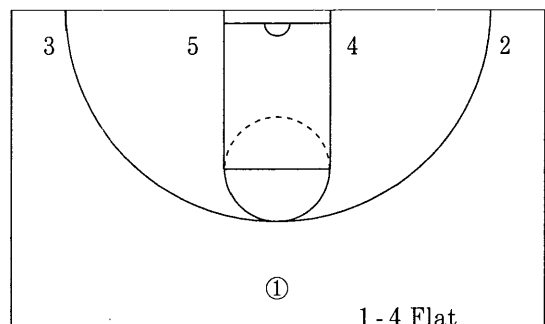


図2-3

尚、かつては、今日所謂 Box Offense や Stack Offense と呼ばれる Alignment に対しても1-4 Offense という呼称が用いられることもあったが<sup>#3)</sup>、現在両者が同じ名称で呼ばれることはないといえよう。

## III. 1-4 Offense における基本的な状況判断

1-4 High Alignment の最大の特徴は、4人のプレイヤーが全員ポイントガードからワンパスのポジションに位置し、

同時にゴール近辺がクリアされているということである。従ってディフェンスはエントリーパスが出されるまでボールサイド・ヘルプサイドを見極めることができず、無理にエントリーパスをディナイしようとするバックドアされてしまうという危険に晒されることになる<sup>21)22)</sup>。

1-4 Alignment の作り方は、通常フリースローライン及びその延長線上に沿って4人のプレイヤーが一行に並ぶが、シューティングガードやスモールフォワードがサイドライン沿いに、パワーフォワードやセンターがエルボー付近に位置する。本稿では便宜上前者を Wing Player、後者を Post Player と呼ぶことにする。

1. ポイントガードによるドリブル

1-4 Offense に直面したとき、多くのチームはポイントガードを何れかのサイドに追い込んで、ボールサイド・ヘルプサイドをなるべく早く確立しようとする。このような場合ポイントガードは先ずプレーを始めようとするサイドと逆にドリブルをし、途中ですばやく方向転換する(図3-1)<sup>18)</sup>。それでもディフェンスが執拗にサイドに追い込もうとするようであれば、Post Player のスクリーンを使ってベネトレイトする(図3-2)。

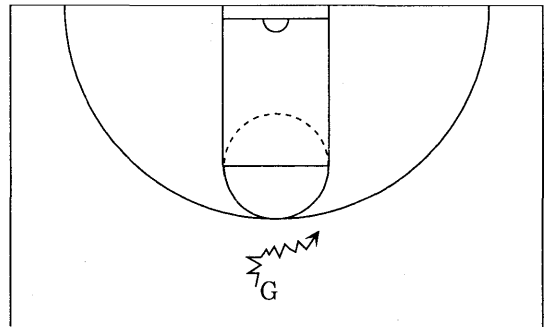


図3-1

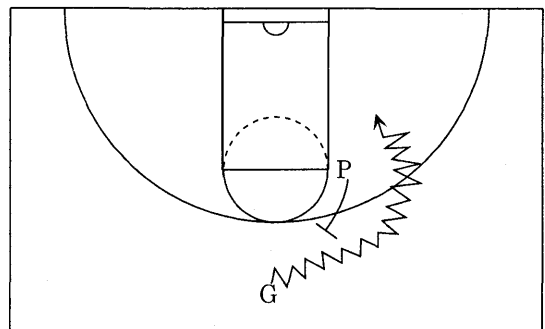


図3-2

2. エントリーパス

エントリーパスをどう出すかはディフェンスの状況によるが、Wing Player と Post Player へのディフェンスは次の4つの状況に分けられる。

1) Wing Player, Post Player ともディナイされている。

この場合 Wing Player, Post Player 共にバックドアを狙う(図3-3)。

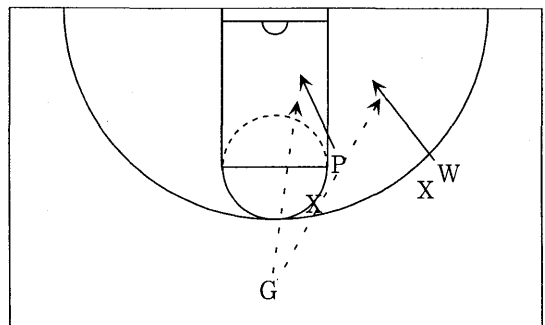


図3-3

2) Wing Player だけがディナイされている。

ポイントガードは Post Player にエントリーパスを出す。Wing Player は直ちにバックドアーを狙う (図3-4)。

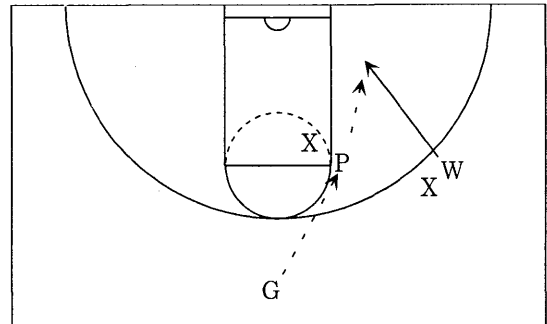


図3-4

3) Post Player だけがディナイされている。

ポイントガードは Wing Player にエントリーパスを出す。Post Player はレーンに沿ってスライドダウンすると簡単にポストアップできるはずである (図3-5)。

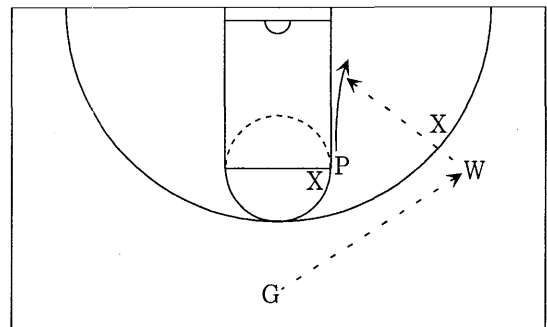


図3-5

4) Wing Player, Post Player ともディナイされていない。

ポイントガードは Wing Player, Post Player の何れにパスしてもよい (図3-6)。

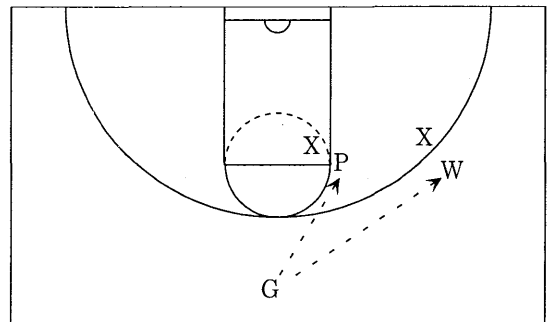


図3-6

### 3. ドリブルエントリー

ポイントガードが Wing Player, Post Player の何れにもパスすることができない場合には、ウイングにドリブルエントリーする (図3-7)。

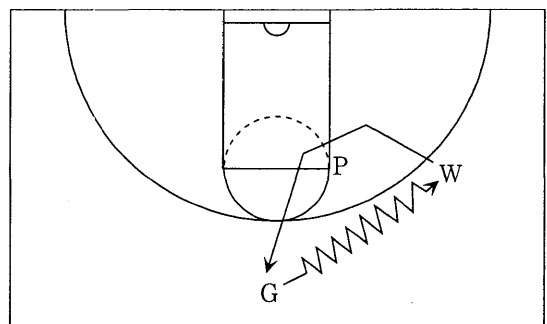


図3-7

#### IV. 1-4 High からのセットプレー及び Continuity Pattern

既に述べたように、1-4 Offense とはその Initial Alignment に由来してつけられた名前であり、あるオフENSEを1-4 Offense と呼ぶかどうかは、その後続くパターンがどうであるかということとは無関係である。従って単に1-4 Offense といっても様々なバリエーションがあり、そのすべてを紹介することは不可能である。

そこで、ここでは各ポジションのプレイヤーの能力を活かすためのセットプレーをいくつか取り上げ、次に1-4 Alignment から始まる代表的な Continuity Pattern を紹介することにする<sup>註4)</sup>。

##### 1. セットプレー<sup>註5)</sup>

###### a) ポイントガードのためのプレー

例1…ポイントガードが Penetrate する能力に長けている場合、Post Player がハイポストエリアでスクリーンをセットする (図4-1)。

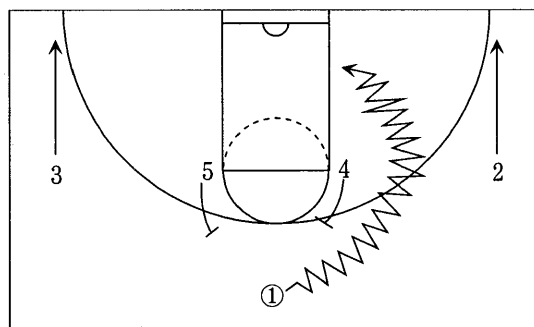


図4-1

例2…ポイントガードにインサイドでの得点能力がある場合、所謂 UCLA Cut を使ってポストアップさせる (図4-2)。

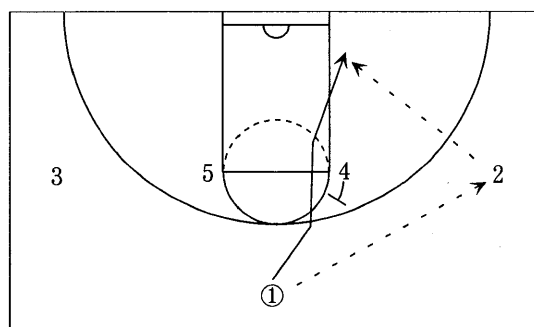


図4-2

例3…ポイントガードに Perimeter でのシュート力がある場合は、ハイポストエントリー後逆サイドの Post Player のフレアスクリーンを使ってワイドオープンになるチャンスをうかがう (図4-3)。

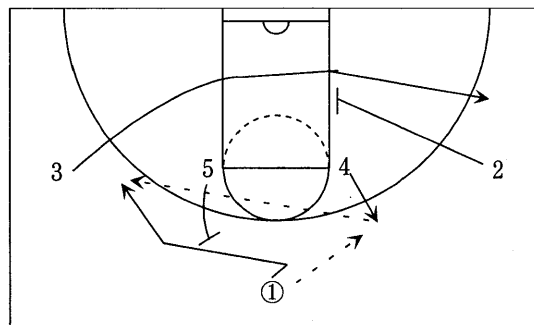


図4-3

b) Wing Player のためのプレー

例1 … 3 は High Post Player 5 と 4 の Staggered Screen を使って逆サイドのウイングエリアにカットし、1 on 1を狙う。もう一人の Wing Player である 2 は、ベースラインをスウィングして 5 のスクリーンを受ける。このプレーは Wing Player の 1 on 1 能力が高いときに有効である (図 4-4)。

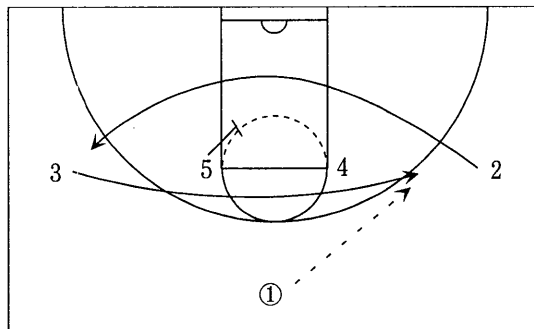


図 4-4

例2 …Wing Player にインサイドでの得点能力がある場合、所謂シャッフルカットを使ってポストアップさせる (図 4-5)。

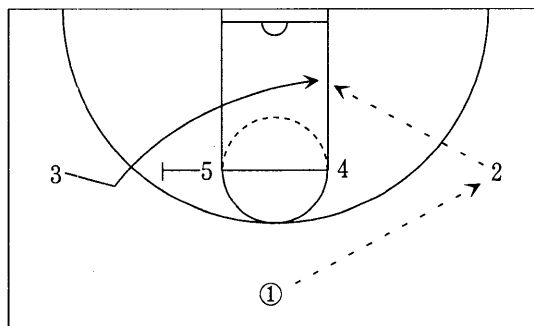


図 4-5

例3 …Point Guard 1 はウイングにドリブルエントリーする。Wing Player 2 は Post Player 4 と 5 の Staggered Screen を使ってポイントエリアにループする (図 4-6)。

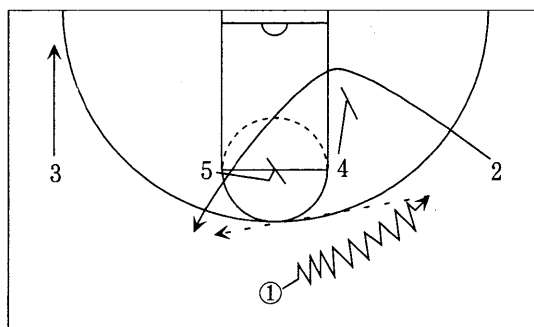


図 4-6

c) Post Player のためのプレー

例1 …Wing Player 2 は Post Player 4 にスクリーンをセットし、続けて 5 にもスクリーンをかける。このプレーは 4 が Perimeter でプレーするスキルを持っている場合有効である (図 4-7)。

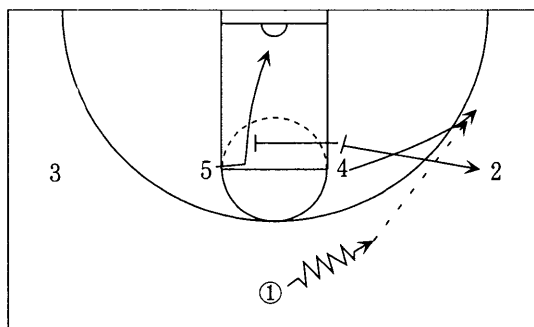


図 4-7

例2…Post Player のインサイドでの得点能力が優れている場合、次のようなプレーが効果的である。Post Player 5 は Point Guard と Pick & Roll する。5 にパスフィードされなかった場合、逆サイドの Post Player 4 が Point Guard からパスを受けて5 との High-Low プレーを狙う (図4-8)。

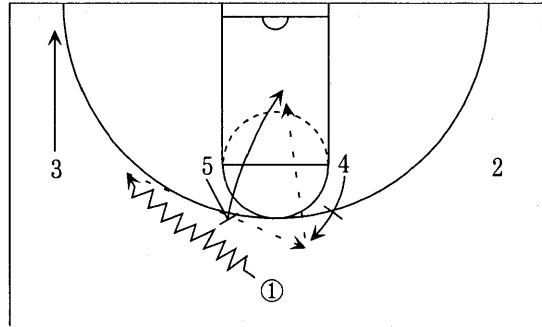


図4-8

例3…Post Player 4 は1 にスクリーンをセットする。逆サイドの Post Player 5 はタイミングを見計らって4 にフレアスクリーンをセットする。これは所謂 Screen for the Screener Play であるが、4 にシュート力がある時非常に有効なプレーとなる (図4-9)。

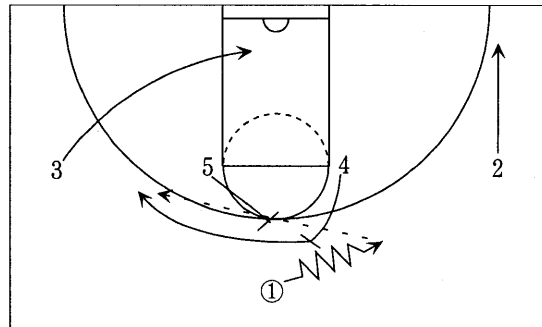


図4-9

## 2. Continuity Pattern<sup>註6)</sup>

1-4 Alignment からの Continuity Pattern で最もポピュラーなものはシャッフルと Triangle Offense であろう。ここでは後者の Triangle Offense を紹介する。

1 は2 にパスする。5 は直ちに1 にバックスクリーンをセットする。同時に4 はレーン上をスライドダウンして Post Up する (図4-10a)。5 はバックスクリーン後、2 からパスを受ける。5 がパスを受けると同時に3 は1 にスクリーンをセットし、さらに引き続き4 にもクロススクリーンをかける。5 は1 にパスした後3 にダウンスクリーンをセットする (図4-10b)。ここまでのプレーでシュートできなかった場合、3 が1 よりパスを受け、Triangle Offense Continuity に入る (図4-10c)。

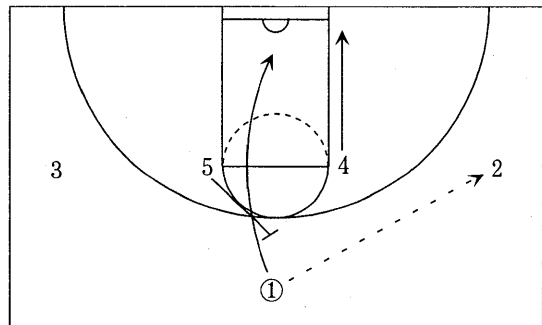


図4-10a

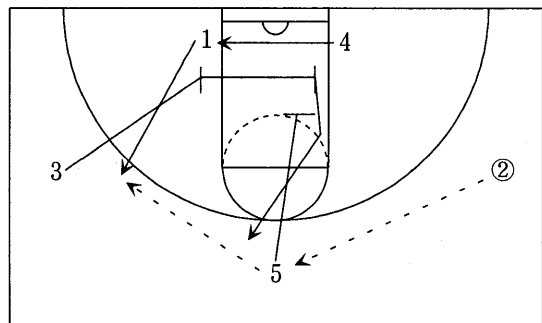


図4-10b

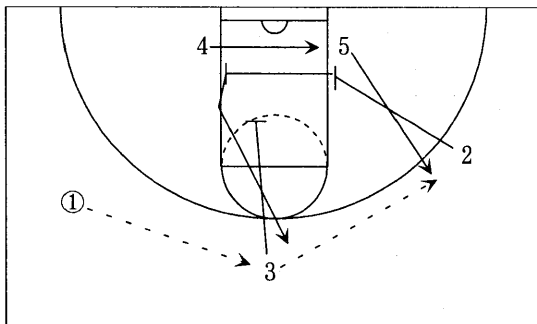


図4-10c



## V. 評 価

既に述べたように1-4 Offenseには大きく分けて1-4 Highと1-4 Flatという2種類のAlignmentからのプレーが考えられるが、ここでは主に1-4 HighからのオフENSESを中心に、その長所・短所を考察していくことにする。

ところで、1-4 Offenseという名称はそのInitial Alignmentに由来してしてつけられたものであるから、1-4 Offenseの長所・短所を考察するということはすなわち1-4 Alignmentのもつ特性を考察することである。では1-4 Alignmentの持つ特性とは何であろうか。

まずあげられるのは、4人のプレイヤー全員がポイントガードからワンパスアウェイのポジションに位置しているということである。従ってオフENSESはエントリーパスを何れのプレイヤーに出すことが可能となる。同時にディフェンスがポイントガードに対してダブルチームをかけることはほぼ不可能となる。また、ゴール近辺がクリアされているので、ディフェンスにとってはパスディナイを強くすればするほどバックドアプレーで簡単に得点されてしまうというジレンマに陥ることになる。従ってディフェンス側としてはバックドアプレーを防ぐためにも何れかのプレイヤーに対するプレッシャーを弱めざるを得ず、オフENSESはセットプレーやContinuity Patternへ容易に移行することができるようになる。これは1-4 OffenseをQuick Hitting Offenseとして利用することも可能であることを意味している。

その他の長所としては以下のようなものが挙げられる。

- ・2人のビッグマンを同時に使うことができる。
- ・スリーガードシステムとしても応用が可能である。
- ・Pick & Roll-特にSide Pick & Roll-にスムーズに移行できる。

短所としては、ワンガードシステムであるので、ポイントガードにかなりの能力が要求されるという点が挙げられよう。すなわち1-4 Offenseを有効に展開するためには、4人の潜在的なレシーバーの誰がオープンになっているかを的確に判断でき、状況に応じてバックドアパスを正確に投げるのできるポイントガードの存在が不可欠なのである<sup>註7)</sup>。

以上本稿ではマンツーマンディフェンスを前提に1-4 Offenseに関する考察を行ってきたが、このオフENSESはゾーンオフENSESとしても非常にポピュラーである。これは1-4 Alignmentをとることによってハイポストエントリーが容易になるため、ディフェンス側に対して何らかの形でゾーンの計画の変更や<sup>註8)</sup>、マンツーマンディフェンスに切り替えるといった対応を迫ることができるからである。また1-4 Alignmentを使ったプレスアタック<sup>註9)</sup>やインバウンドプレー<sup>註10)</sup>も頻繁に見受けられるが、これらについての詳細な議論はまたの機会に譲ることとしたい。

## 〈注〉

注 1) 1-4 Tightを紹介している文献としてはJenkins<sup>9)</sup>がある。尚、このAlignmentは1-4 Highの一変種と考えることができる。

注 2) 1-4 Flat Offenseについては、例えばHatch<sup>9)</sup>、Stier<sup>19)</sup>を参照。

注 3) 今日Box Offenseと呼ばれるオフENSESを1-4 Offenseとして紹介している文献としては、Heitzman<sup>9)</sup>、Henry<sup>7)</sup>などがある。またStack Offenseに対して1-4 Offenseという呼称を用いている文献はLawson<sup>12)</sup>がある。

注 4) セットプレー中心かそれともContinuity Patternかという選択は、大型のプレイヤーを擁する場合は前者を、小型のチームの場合は後者を選択するのが一般的である。この点についてはHarkins<sup>4)</sup> p.10を参照。

注 5) セットプレーはBaker<sup>1)</sup> pp.65-69、Reiter<sup>17)</sup> pp.1-20に多数紹介されている。

注 6) Continuity Patternについては、例えばHarkins<sup>4)</sup>、Verba<sup>20)</sup>、Voth<sup>21)</sup> pp.137-185等を参照。尚、1-4からのTriangle Offenseを説明している最近の文献としてはPretzer<sup>15)</sup>がある。

注 7) このような要求を満たすためにも、できれば長身のポイントガードを擁していることが望ましい<sup>22)</sup>。

注 8) ゾーンオフenseについては, John<sup>9)10)</sup>等を参照。

注 9) プレスアタックについては, Davis<sup>3)</sup>, Lucas<sup>13)</sup>, Zampardi<sup>23)</sup> pp.163-76等を参照。

注10) インバウンドプレーについては, Karl et.al.<sup>11)</sup> pp.68-71, Reiter<sup>16)</sup> pp.53-56等を参照。

《参考文献》

- 1) Baker, Jim (1992), "The Best of Time Out Book One : Man and Zone Offense", Time Out
- 2) Ceravolo, Joseph J. (1970), "The Modern 1 - 4 Basketball Offense", Parker, p. 9
- 3) Davies, Tom (1972), " 1 - 4 Full Court Press Attack", *Athletic Journal*, December 1972, pp.17, 33.
- 4) Harkins, Harry L. (1980), "Coach's Guide to Basketball's 1 - 4 Offense", Parker
- 5) Hatch, Boyd (1983), "Simple Offense CAN Work", *Athletic Journal*, August 1983, pp.22, 36.
- 6) Heitzmann, William Ray (1978), "A Simplified Basketball System", *Coach & Athlete*, August/September 1978, pp.36-37, 39-42.
- 7) Henry, Kent (1964), "Simplified 1 - 4 Attack", *Scholastic Coach*, December 1964, p.7
- 8) Jenkins, Paul E. (1962), "A Lonesome Guard Tight 1 - 4 Offense", *Scholastic Coach*, October 1963, pp.12-13, 81-82.
- 9) Jones, Stan (1990), " 1 - 4 Rules Offense vs. A Zone", *The Basketball Bulletin*, Summer 1990, pp. 19-22.
- 10) Jones, Stan (1991), "Adding to 1 - 4 Zone Offense", *The Basketball Bulletin*, Fall 1991, pp.13-15.
- 11) Karl, George & Sttots, Terry & Johnson, Price (1997), "101 Basketball Out-of Bounds Drills", Coaches Choice Books
- 12) Lawson, Thomas (1969), "The 1 - 4 Multiple Offense", *The Coaching Clinic*, October 1969, pp.11-14
- 13) Lucas, Ron (1973), "The 1 - 4 Breaker", *Athletic Journal*, October 1973, pp.46, 67.
- 14) Neary, Shawn (1995), " 1 - 4 Entry Set into Motion", *Scholastic Coach*, December 1995, pp.30-31.
- 15) Pretzer, John (1998), "The Triangle Offense off a 1 - 4 Set", *Scholastic Coach*, August 1998, pp.62-65.
- 16) Reiter, Tom (1993), "Basketball Inbound Attack", Master Press
- 17) Reiter, Tom (1995), "Basketball's Offensive Sets", Master Press
- 18) Smith, Dean (1981), "Basketball-Multiple Offense and Defense", Prentice-Hall, p.42.
- 19) Stier, William F. (1972), "1-4 Baseline Attack", *Scholastic Coach*, November 1972, pp.22, 36.
- 20) Verba, Ray (1972), " 1 - 4 Pattern Offense with Continuity", *The Coaching Clinic*, October 1972, pp.5-7.
- 21) Voth, Robert (1979), "Complete Book of Basketball's Continuity Pattern Offenses", Parker, p.137.
- 22) Wall, Carl (1972), "The 1 - 4 Offense for Low Post Play", *Athletic Journal*, October 1972, p.56.
- 23) Zampardi, Frank (1980), "Multiple Penetrating Attacks for Winning Basketball", Parker